

果樹カメムシ類とは

○主な種類

果樹カメムシ類は、全国で三十数種いるが、発生が多い種は、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ

○主な寄主植物

カンキツ、カキ、ナシ、モモ、ウメ、リンゴなど

○発生地域

- ①チャバネアオカメムシ：日本全国に分布するが、特に関東以南での発生が多い。
- ②ツヤアオカメムシ：関東以南に分布するが、九州南部および四国南部などの西南日本での発生が多い。
- ③クサギカメムシ：日本全国に分布するが、特に、関東以北での発生が多い。

○生態

スギ・ヒノキなどの針葉樹林で球果内の種子を餌として繁殖し、餌が枯渇すると針葉樹林を離脱し、果樹園に飛来して被害を起こす。

発生量は主要な餌であるヒノキ・スギ球果の量に左右され、年次変動が非常に大きい。

○被害の状況

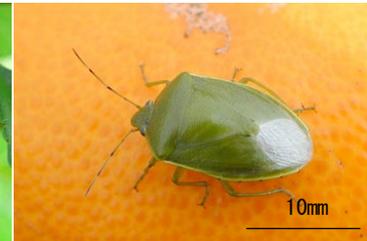
いずれの種も針状の口を果実に刺し込んで吸汁加害する。加害を受けた果実は、吸汁された部分がスポンジ化してくぼみを生じ、商品価値を大きく損なう。また、幼果期に加害を受けると落果する。

○防除方法

果樹園飛来時の殺虫剤散布が基本。飛来状況は地域や園地により異なることから、国・都道府県の発生予察情報等を参考にしつつ、園内を見回り、飛来が認められた場合は、直ちに薬剤防除を実施する。
その他に早期の袋がけ、多目的防災網の展張等がある。



チャバネアオカメムシ



ツヤアオカメムシ



クサギカメムシ



ウンシュウミカンを吸汁加害するカメムシ類



カメムシ類の吸汁加害で落果したウンシュウミカン



カメムシ類の吸汁加害で変形したナシ

果樹カメムシ類の大まかな生態

